

消化器内科について

主に胃、食道、十二指腸、大腸の消化管の病気、肝臓、胆嚢、膵臓などの病気を扱うのが消化器内科です。

吐き気、胸やけ、便秘、下痢、血便、腹痛など、腹部症状がある方は早めの受診をお勧めします。

また、早期の消化管癌、胆膵領域の癌は自覚症状がないことも多いですので、症状のない方も、ご心配な方は受診してください。採血、消化管内視鏡（胃カメラ・大腸鏡）、CT、MRIなどで精査していきます。

消化器は食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓という幅広い臓器があり、それぞれ多くの疾患があります。

具体的な主な疾患としては、食道炎、食道癌、胃炎、ピロリ菌感染、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、小腸出血、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、大腸ポリープ、大腸癌、胆嚢癌、胆管癌、総胆管結石、膵炎、膵癌、膵のう胞性病変、肝炎、肝硬変、肝細胞癌などがあげられます。それぞれの疾患に対し、適切な内服、処置を選択してまいります。当院で対応困難な際は、適切な病院に紹介させていただきます。

上部・下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡を中心に診断・治療を行っています。

早期癌などに対し、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、ポリープ切除を行っています。

炎症性腸疾患に対し、内服調整から抗TNF- α 抗体療法などのBio製剤まで、病態に沿った治療を行っています。

小腸疾患に対しては小腸内視鏡を用いた診断・治療を行っています。

胆膵領域では胆道結石や悪性腫瘍に伴う閉塞性黄疸、胆管炎に対する内視鏡的結石除去術、ステント留置等を行っています。胆石、胆のう炎は外科への受診・紹介をさせていただきます。

◎主な消化管内視鏡処置の例

名称	所要日数	説明
内視鏡的大腸ポリープ切除術	約2日	内視鏡を用いて大腸ポリープを切除します。 多くは入院して経過をみます。
早期消化器癌の 内視鏡的粘膜切除術(EMR)	約7~10日	内視鏡を用いて早期癌を切除します。 部位、大きさなどにより適応を慎重に判断して行います。
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)		術後合併症がなければ約1週間で退院できます。
消化管ステント挿入術	約5~10日	消化管癌によって閉塞しているところにステントを挿入し、 流れを良くします。
小腸ダブルバルーン内視鏡	約2~3日	レントゲンを併用して小腸の観察、治療を行います。 鎮静剤を十分量使用するため、入院で行います。

◎胆・膵系の内視鏡検査・処置◎

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	約2~3日	胆道、膵管の検査を行います。 偶発症もあるため、入院で行います。
内視鏡的胆管結石除去術	約5~10日	総胆管結石を砕石、排石します。 多くは胆管炎を合併しており、入院日数が長くなります。
内視鏡的胆道ステント挿入術	約5~10日	胆管閉塞部位にステントを挿入し、黄疸の解除をします。